

## 論述ブースト No.6

## 社会医学を論じる

## —— 公衆衛生・予防医学の視点を答案に組み込む

**目標：**医学部小論文で頻出する「公衆衛生・予防医学・社会医学」の視点を論述に組み込む技術を習得する。個人の治療から「集団・社会・予防」へ視野を広げ、医師が社会に果たす役割を論証できるようにする。

## 授業の仕掛け（直感への衝撃）

**導入の問い：**「医師の役割とは？」→「患者を治すこと」で終わる生徒が多い。しかし社会医学では医師は「病気になる人を減らす社会をつくる」役割も担う。

**核心：**社会医学の3層構造：個人レベル（臨床）→ 集団レベル（疫学・予防）→ 社会・制度レベル（政策・公衆衛生）

## 採点者の視点

## 採点者はここを見ている —— 社会医学・公衆衛生・予防医学で合格答案はこういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

社会医学・公衆衛生・予防医学では、**予防医学の視点の根拠**が答案の質を大きく左右します。

## ② 社会医学・公衆衛生・予防医学で採点者が見ているポイント

「一次・二次・三次予防の枠組みで論じた答案」が採点者評価を上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所